

## 国語と数学の記述式問題の検討状況について

### I 作問の検討状況

#### 1 問題案検討の方向性

「記述式方法検討チーム」における検討を踏まえ、以下の方向で検討を行っている。

##### 【国語】

	現行センター試験	今年度WGで新たに実現可能性を検証したいもの
問題素材	・大問ごとにそれぞれ評論、小説、古文、漢文の単独素材テキストによる問題	・複数の情報を統合し構造化することを問うことのできる素材（複数のテキスト、図表・グラフを含むテキスト等を一つの大問で問う出題など）
資質・能力	・言葉の働きや役割に関する出題 ・文章の構造に係る問題 ・古文、漢文の読解に係る問題	・複数の情報を統合し構造化して新しい考えをまとめる問題 ・複数の情報を統合し構造化して新しい考えをまとめる過程や結果を表現する問題
設問形式	・マークシート方式	・短答式（1～10字以内） ・短文記述式（40～80字程度） ・より文字数の多い記述式（100～200字程度）

##### 【数学】

	現行センター試験	今年度WGで新たに実現可能性を検証したいもの
問題素材	焦点化した数学の問題	・日常生活や社会の事象を素材にしたもの ・数学的な素材であっても本質を焦点化していないもの
資質・能力	焦点化した数学の問題を解決する力	・日常生活や社会の問題を数理的に捉える力 ・問題解決に向けて、構想・見通しを立てる力 ・解決過程を振り返り、得られた結果を意味づけたり、活用したりする力、概念を形成したり、体系化する力
設問形式	数値マーク式	・短答式（数式の記述） ・短文記述式 ・より文字数の多い記述式

#### 2 WGのスケジュール

- 7月末           WG設置
- 8月～9月      多様なパターンの記述式問題案の検討
- 10月           モニター調査に向けた記述式問題案及び採点基準の検討
- 11月下旬      記述式問題のモニター調査を実施（多様な学力層 500名程度を想定）
- 12～2月       記述式+マーク式問題案及び採点基準の検討
- 2月            記述式+マーク式問題のモニター調査を実施（多様な学力層 500名程度を想定）

※WG委員は、国語 13名、数学 11名（WGの各座長は「記述式方法検討チーム」の委員）。1～2週間に1回（約6時間）程度開催。

※8月1日付けでセンターに都道府県指導主事経験者を「試験問題企画官」として採用。

### 3 検討課題

(1) 試験時間内で解答可能な出題内容や記述量等

(2) 条件を設定して作題すること

#### 【国語】

- ・国語の問題作成においては、求める資質・能力をはかることのできる素材を選定して問題を作成し、解答例の妥当性を検証していく中で、記述量や条件の適格性を検討しながら「条件付記述式」問題として作成していく。このため予め条件を設定して問題を作成することはできない。

(3) 共通試験で採点可能な条件適合性について

#### 【国語】

- ・国語の記述問題における条件とは、文字数、本文からの引用（文、語句）の指定、解答の内容に係る要素<sup>※1</sup>の指定等が考えられる。
- ・条件を付けることで、解答の自由度が一定、制限されることとなり、客観性の高い採点が可能となる<sup>※2</sup>。
- ・一方、条件を付けることにより、本来の問いたいその問題において求める資質・能力がはかりにくくなることが予想される<sup>※3</sup>。
- ・解答の中に含まれる誤字、脱字、日本語としての妥当性等については、許容する基準について、客観性を示すことが難しく、共通採点段階ですべてを評価することは困難である。

※1 例えば、解答要素として必要となる筆者の結論やその根拠・理由として示される事項等

※2 例えば、文中の語句の指定を条件とすることで、受験者の解答に出現しうる同意の様々な言葉の妥当性を検証して正誤を判断する必要がなくなる。

※3 例えば、文中の語句の指定を条件とすることで、受験者の文章作成に制限が生じ、求める資質・能力としては、内容の理解がはかられればよいにも関わらず、解答できない受験者が出てくるものが予想される。

#### 【数学】

- ・数式を解答させる場合は、誤字・脱字も内容的要件となる。
- ・思考のプロセスを解答させる場合は、共通採点が非常に困難となる<sup>※1</sup>。
- ・数式以外の日本語の記述については、解答の中に含まれる誤字、脱字、日本語としての妥当性等については、許容する基準について、客観性を示すことが難しく、共通採点段階ですべてを評価することは困難である。

※1 例えば、受験者によって、プロセスの表現方法が異なることから、採点基準で定める正当の要件に合致しないものの、誤りとは言えない解答が出てくるものが予想される。

(4) 採点基準

- ・受験生の自己採点のための大まかな基準（第1次基準）や、採点者のためのより精緻で具体的な基準（第2次基準）の在り方について

## II 民間業者ヒアリングの結果

国語（40文字1問・80文字1問）及び数学の記述問題を20日～30日を採点期間の目安とした場合、どの程度のことができるか非公式にa、b社にヒアリングを行った。

- ⇒ 条件への適合性（文字数・キーワードの有無、解答の内容に係る要素の妥当性）については、対応が可能。
- ⇒ 日数を長く確保することで、解答の内容に係る要素について、より精緻な判断ができる。
- ⇒ 誤字・脱字や文法表現の適切性についての評価は、採点期間や採点者数の確保が十分であれば可能という性質のものではなく、一律公平な採点には不向きである。